

内容 : 暗黒エネルギーを発見

媒体名 : 朝日新聞

年月日 : 2011年10月6日(木) 32面

暗黒エネルギーを発見

物理学賞 宇宙の膨張 謎解く原点

ノーベル物理学賞に選ばれた米ローレンス・バークリー国立研究所のパールマター博士ら3氏の研究は、宇宙の膨張が加速していることを示し、加速を生み出す正体不明の「暗黒エネルギー」の存在を示したことが評価された。

宇宙の成分は、地球や人間といったわれわれの知る「物質」の量は全体の4%にすぎない。一方、暗黒エネルギーは全体の73%を占めているとされる。

佐藤勝彦・自然科学研究機構長によると、暗黒エネ

ルギーの存在は、宇宙の始まりに急激な膨張（インフレーション）があったとする理論を支持することにもなった。「宇宙論を大きく進ませた、大変すばらしい発見だった」と話す。

いま、暗黒エネルギーの正体を探るため、研究が進んでいる。ハワイのすばる望遠鏡でも、特殊な装置を設置して観測が始まる。

杉山直・名古屋大教授は「私たちはいま最大の謎に直面していると言っている。今回はその謎に迫る研究の原点となる発見に与え

られた」と評価する。

ともに兼任先のカリフォルニア大バークリー校でパールマター博士と同じ階に研究室を構える村山斉・東大数物連携宇宙研究機構長は、同僚の受賞の知らせに「当然だと思っけど、おめでどう」というメールを送った。パールマター氏は粘り強く、自分で考え抜いて、みんなを引っ張っていくタイプの学者という。村山さんは「膨張が加速するしくみが解明されれば、今後この分野でノーベル賞が続くだろう」と期待する。